



記 入 日 2015 年 1 月 12 日

1. 概 要

実践団体名	中津市立城北中学校		
連絡先	0979-22-0780		
プランタイトル	「自分の命は自分で守る」防災教育		
プランの対象者※1	中学生、保護者・PTA、 地域住民	対象とする 災害種別※2	地震

※1 別紙「記入上の留意点」の1. 項目から選択し、記入してください。(複数選択可)

※2 別紙「記入上の留意点」の2. 項目から1つ選択し、記入してください。

【プランの目的・ここがポイント！】

目 的

「生涯にわたって自然災害と向き合い、共に生きていく力をもった人づくり」としての防災教育

ポイント ①教職員の防災意識の高揚。

②生徒の防災への備えや「自分の命は自分で守る」という主体的な考えの育成。

③3年間を1サイクルとしての系統立てたカリキュラムの構築。

④本校が地域・家庭の防災教育拠点となる。

【プランの概要】

大分県の防災教育モデル実践事業「モデル実践校」として、昨年まで2年間、「自分の命は自分で守る」～自助から共助・公助へ～を主題として研究実践に取り組んできた。そして、今年度、「自助」、「公助」、「共助」を各学年のテーマとし、総合的な学習の時間を活用した3年間を1サイクルとしての系統立てた実践が完成した。

また、これまでの実践を活用し、「地域・家庭を巻き込んだ防災教育の実践」という新たなチャレンジを実践した。

【期待される効果・ここがおすすめ！】

- ・教職員は、研修会や講話により指導助言を受け、防災管理のあり方や防災教育の進め方について理解を深め、防災意識の高揚が図られる。
- ・各教科における防災教育の実践、防災講演会、避難訓練、校内安全点検、防災宣言などの取組を通じて、生徒の防災意識や「自分の命は自分で守る」という安全な行動の仕方についての主体的な考え方や実践的な態度が育成できる。
- ・大規模災害に備え「自助」「公助」「共助」を各学年のテーマとし、三年間を1サイクルとして系統立てた取り組みを実施できる。
- ・学校、家庭、地域、関係機関等がともに防災について考える場（防災教育の拠点）となる。

2. プランの年間活動記録 (2014 年)

	プランの 立案と調整	準備活動	実践活動
4 月	避難訓練①	防災担当教員・担任	地震発生放送、1次避難、避難放送、2次避難、 人員確認、防災学習(映像)、講評・総括・解散
5 月	校内安全点検 (防災学習 2 時間)	安全点検リスト、校内 マップ	「もし、災害が起こったら」という視点で危険個 所を知り、安全確保・避難経路の確保のための防 災マップづくり。
6 月	教職員研修 避難訓練②	校区点検マップ、まと め用紙	4 グループに分け、地震・津波災害の避難経路の 確認や地域の弱み・強みについて特徴を出し合い 図上避難訓練(DIG)を実施。
7 月	「親子で防災学習」 着衣泳、救急救命法	講師依頼、防災学習準 備。	親子で講演を聞く(生徒 274 名、保護者 65 名)。 保護者 136 名の参加の下、防災学習を実施。
8 月	第 1 回実践委員会	行政・地区の関係者と の打ち合わせ。	防災教育アドバイザー、市防災担当、消防署長、 教育委員会、自治委員、小学校長、本校防災担当 で、実践内容の検討・改善を行う。
9 月	防災学習 2 時間		1 年:「自助」自分でできる対策について 2 年:「公助」災害時にできることについて 3 年:「共助」自分が地域でできることについて
10 月	防災学習 3 時間		1 年:救助器具、消化器の使用法 2 年:応急手当、負傷者運搬等について 3 年:避難所生活、ボランティアについて
11 月	「生徒・地域住民避 難訓練」(避難訓練③)	自治委員・行政との打 ち合わせ等	地域住民 80 名が参加し、校舎 3 階に生徒 270 人 と避難した。その後、全員で防災講話を聞く。
12 月	「総合防災学習」 避難訓練④ 第 2 回実践委員会	講師依頼、防災学習準 備。	防災学習・講演に保護者 27 名参加。 引き渡し訓練に保護者 141 名参加。
1 月	避難訓練⑤ 防災学習 2 時間		1 年:家族の安全、外出中・交通機関等。 2 年:身近にあるもので応急手当・負傷者運搬。 3 年:地域防災の一員としての心構え、自分の役割。
2 月	防災学習 2 時間 第 3 回実践委員会		日常生活に生かせるように、1 年:「自助」、2 年: 「公助」、3 年:「共助」をまとめる。 今年度のまとめ・来年度の方向性について
3 月	避難訓練⑥		昼休みにおける抜き打ち地震緊急避難訓練

3. 実践したプランの内容と成果

【実践プログラム番号： 1 】※3

タイトル	親子で防災学習
実施月日（曜日）	7月6日（日）
実施場所	中津市立城北中学校
担当者または講師	担当者・講師等の区分：防災教育担当 氏 名：市尾 誠 所属・役職等：城北中学校・教諭
所要時間または「コマ数×単位時間」	2 × 50分間
プログラムのカテゴリ、形式※4	3, 4
活動目的※5	6, 8
達成目標	生徒が地域住民・保護者と防災について学習し、学校より防災教育の必要性を家庭や地域に発信する。
実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）	<ul style="list-style-type: none"> ・(4限) 防災講話 講師：木ノ下勝矢（レスキューサポート九州） 演題「命を守る防災教育」 ・(5限) 親子で防災学習 1年：非常事態発生！そのとき、どうする。 2年：クロスロード 3年：DIG(防災マップづくり)
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	<ul style="list-style-type: none"> ・講師：木ノ下勝矢（レスキューサポート九州） ・1年「非常事態発生！そのときどうする」：キッチンで調理中、ブロック塀に囲まれた路地、大型ショッピングセンターで買い物中、地震発生時等、7つの場面写真。 ・2年「クロスロード・どっちを選ぶ！」：地震編4問・自然災害編3問・避難所運営編2問のシート ・3年DIG「防災マップを作ろう」：地図、マジック、シール等
参加人数	・生徒274名、教職員25名、保護者・地域住民136名
経費の総額・内訳概要	総額36,104円(講師謝金5000、消耗品31104)
成果と課題	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校で生徒を中心として保護者・地域住民とともに防災教育を実践することで、家庭や地域の防災意識が高揚できた。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昼食をはさんだため、午前中の講話参加者が少なかった。
成果物	

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。(複数選択可)

※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。

【実践プログラム番号： 2 】※3

タイトル	実践委員会
実施月日（曜日）	1回：8月20日(水) 、2回：12/13 、3回：2/13
実施場所	中津市立城北中学校 図書室
担当者または講師	担当者・講師等の区分：教頭 氏 名：高橋 雅浩 所属・役職等：城北中学校・教頭
所要時間または「コマ数×単位時間」	90分
プログラムのカテゴリ、形式※4	17（防災アドバイザー、市防災担当者、消防署長、社会福祉協議会、校区小学校長、自治委員、公民館運営委員等と、本校防災教育関係者で、プランの目的・内容・計画等を協議・検討する話し合い）
活動目的※5	10（プランの目的・内容・計画等を協議・検討する）
達成目標	プランの目的・内容・計画等を協議・検討する。
実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）	<ul style="list-style-type: none"> ・委員長、副委員長の選出 ・報告および協議 ・これまでの取組について ・本年度のプランについて
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	<ul style="list-style-type: none"> ・防災アドバイザー、市防災担当者、消防署長、社会福祉協議会、校区小学校長、自治委員、公民館運営委員、校区ネットワーク代表、グループホーム防災担当者、PTA会長、本校関係者（校長、教頭、教務主任、防災教育担当）
参加人数	16人
経費の総額・内訳概要	1回につき10,000円（実践委員の謝金として）
成果と課題	<p>【成果】今年度の活動プランが承認された。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「生徒・地域住民避難訓練」、「総合防災学習12/13」の実施が決定。 ・地域との連携は三原自治委員、保護者との連携は伊達PTA会長を窓口で教頭が進めることを確認する。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・住民への連絡方法は、どうするのか。
成果物	

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。（複数選択可）

※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。



【実践プログラム番号： 3 】※3

タイトル	生徒・地域住民避難訓練
実施月日（曜日）	11月5日（水）
実施場所	中津市立城北中学校
担当者または講師	担当者・講師等の区分：防災教育担当 氏 名：市尾 誠 所属・役職等：城北中学校・教諭
所要時間または「コマ数×単位時間」	2 × 50 分間
プログラムのカテゴリ、形式※4	3、13、16
活動目的※5	4
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒・地域住民避難訓練を通し、課題を洗い出す。 ・講話や実技を通し、災害に対する防災や減災の意識の高揚を図る。
実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）	<ul style="list-style-type: none"> ・10:00～ 中津市の防災放送で、地域住民が避難を開始する。 ・10:45 避難完了（3階マルチルーム） 生徒・教職員 299名、地域住民 80名 ・11:00～ 講話「郷土における災害の歴史」（1・2年生、地域住民） 実技「要援護者の防災支援」
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	<ul style="list-style-type: none"> ・自治委員・市役所総務課との打ち合わせ会（10/21 19:00） ・高倉 清（郷土歴史家） 演題「郷土における災害の歴史」 ・長谷部達也（グループホーム「小祝」の防災担当者） 実技「要援護者の防災支援」 （準備物）シート、毛布、長棒 等
参加人数	・生徒 274名、教職員 25名、保護者・地域住民 80名
経費の総額・内訳概要	5,000円（講師謝礼）
成果と課題	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の津波災害の1時避難場所である北校舎3階に、初めて、生徒と地域住民が避難する訓練が実施できた。 ・地域の自治委員と本校職員で、誘導・点呼等が連携してできた。地域住民が避難場所までかかる時間が計時できた。 ・講話や実技を通し、災害に対する防災や減災の意識高揚が図れた。 ・学校の隣りの地区が地域避難訓練を計画したり、近くの保育園が本校まで避難訓練を実施した。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒と地域住民の避難経路が重なり、時間がかかった。 ・自力で階段を上がれない方を誰が、どのように支援するのか。
成果物	

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。（複数選択可）

※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。

【実践プログラム番号： 4】※3

タイトル	総合防災学習
実施月日（曜日）	12月13日（土）
実施場所	中津市立城北中学校
担当者または講師	担当者・講師等の区分：防災教育担当 氏名：市尾 誠 所属・役職等：城北中学校・教諭
所要時間または「コマ数×単位時間」	5 × 50 分間
プログラムのカテゴリ、形式※4	3、4、13、16
活動目的※5	9
達成目標	防災学習のまとめとして、各学年の学習目標にそった色々な体験や学習を通し、災害に対する防災や減災に対する主体的な考え方や実践的な態度を育てる。
実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）	<ul style="list-style-type: none"> ・1限：避難訓練、「みんなが主役になる防災」講話 ・2限：1・2年生「防災学習」、3年生「避難所運営について」講話 ・3限：1年生「救命・消防」実技、2年生「自助・公助」講話 3年生「防災学習」・防災宣言製作 地域住民・保護者「家庭における防災対策」講話 ・4限：1・2年生「防災宣言製作」、3年生ボランティアおにぎり ・5限：保護者への引き渡し訓練、親子で通学区ハザードマップ
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	<ul style="list-style-type: none"> ・城下 英行（関西大学 社会安全学部） 生徒：「みんなが主役になる防災」、地域：「家庭における防災対策」 ・吉田 瑞穂（中津市社会福祉協議会地域福祉係） 2年生「自助・公助」、3年生「避難所運営について」
参加人数	・生徒 274 名、教職員 25 名、保護者・地域住民 141 名、来賓 8 名
経費の総額・内訳概要	総額 100,145 円 (おにぎり材料 20105、講師関係 36624、用紙・インク 43416)
成果と課題	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・避難訓練、防災学習、防災講話、防災宣言製作を通して、生徒の防災意識や「自分の命は自分で守る」という安全な行動の仕方についての主体的な考え方や実践的な態度が育成できた。 ・保護者への引き渡し訓練や、保護者と生徒で通学路・地域を歩き、安全マップを製作できた。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・イベント的な学習となり、保護者や地域住民と継続的な関係づくり（地域防災計画等）にどう進めていくかが課題である。
成果物	・避難所運営のてびき ・ハザードマップ ・防災宣言

4. 苦勞した点・工夫した点

プランの立案 と調整で 苦勞した点 工夫した点	<ul style="list-style-type: none">・今年度の人事異動で1/3の職員が入れ替わったが、防災教育3年目の実践であったため、教務主任、防災教育担当者を中心にスムーズな立案ができた。・実践委員会の開催も3年次に入り、中津市、教育委員会、社会福祉協議会、消防署、地区自治委員、グループホームとも、日程等の調整が整いやすかった。
準備活動で 苦勞した点 工夫した点	<ul style="list-style-type: none">・活動への協力や参加の呼びかけについて、保護者へは城北中メールで行き届いたが、地域住民への連絡手段が4名の自治委員さん（回覧板とお知らせビラ配布）にとどまり、徹底したとはいえない。
実践に 当たって 苦勞した点 工夫した点	<ul style="list-style-type: none">・防災教育3年目の実践ができ、総合的な学習の時間（20時間）のカリキュラムが出来上がった。（継続は力なり）。・今年度より始めた地域を巻き込む活動は、進むのに時間がかかる。

5. 他の団体、地域との連携

協力・連携先の分類	団体名、組織名	協力・連携の内容
学校・教育関係・ 同窓会組織	・中津市教育委員会	防災教育担当指導主事 による支援・助言
保護者・ PTAの組織	・城北中 PTA	プランへの協力や、イベ ントへの参加要請
地域組織	・自治委員 5 名（小祝本町、小祝上方町、 小祝中島町、小祝港町、小祝新町） ・公民館運営委員	・地区住民への連絡 ・学校新聞（活動報告、 お知らせ）の配布
国・地方公共団体・ 公共施設	・中津消防署	実技指導 「救命・消火活動体験」 「スモーク体験」
企業・ 産業関連の組合等		
ボランティア団体・ NPO法人・NGO 等	・地域ネットワーク「ぽけっと」	ネットワーク活動で、地域 防災の講演会を実施。
職業、職能団体・ 学術組織、学会等	・関西大学 社会安全学部 山崎栄一先生、城下英行先生	・防災教育アドバイザー として、プランへの助 言・指導 ・生徒や地域住民への講 話

6. 成果と課題（実践したプラン全般について）

<p>成果として 得たこと</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員→研修会や講話により指導助言を受けたことにより、防災管理・組織的活動のあり方や防災教育の進め方について理解を深め、防災意識の高揚が図られた。 ・全領域における防災学習の実践、防災講演会、避難訓練等の取り組みを通じて生徒の防災への備えの重要性や「自分の命は自分で守る」という主体的な考え方が育成できた。 ・地震災害及び二次災害について多様な想定のもとに避難訓練を実施できた。避難訓練を重ねる毎に避難完了時間が速くなった。（想定を変更したことにより、安否確認方法、避難場所・避難経路の確認や再検討ができた） ・大規模災害に備え「自助」「公助」「共助」を各学年のテーマとし、三年間を1サイクルとして系統立てた取り組みが実施できるようになりつつある。（総合的な学習で） ・災害時における自分の立場での役割を果たすことの大切さに気づくことができた。 ・学校、家庭、地域、関係機関等がともに防災について考える場となった。 ・実践委員会や防災教育アドバイザー等外部有識者によるチェックや助言で防災教育が推進でき、避難拠点としての学校全体の地震・津波による防災体制が構築されつつある。
<p>全体の反省・ 感想・課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・職員が教務主任・防災担当者を中心に組織体として、プランを遂行できた。この同僚性の構築が、本校生徒の学力・体力向上の教育実践につながるエネルギーとなれた。 ・この3年間の防災教育の実践を、今後は、学習を通して学んだことで、もっと自分たちの地域の防災や町づくり、福祉の推進に関わらせていきたい。 ・災害ボランティア活動に関する理解を深め、安全で安心な社会づくりに貢献する意識を高めるための指導のあり方を模索する必要がある。
<p>今後の 継続予定</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・7月第1日曜日の学校公開日は「親子で防災学習」、11月5日津波防災の日は「生徒・地域住民避難訓練」、12月第2土曜日の日曜PTAは「総合防災学習」と、年間3つのイベントとして今後も継続させることで、生徒が地域防災や町づくりに関わる防災教育を推進する。 ・県が購入した起震車による体験、スモーク体験、ボランティア体験など、体験を通じた防災学習を重視したい。

7. 自由記述欄 ※6

※6 自由記述欄は、防災教育の実践で得られた知見、防災教育の普及に関わる提案等を盛り込んでください。また、前頁までの記述に不足した事項、参考資料、写真等を自由にご記入ください。なお、3ページ以内厳守をお願いします。

① 日曜授業公開日 7月6日(日)

「防災講話」

木ノ下 勝矢氏 (防災アドバイザー：レスキューサポート九州)

「親子で学ぶ防災学習」 保護者136名



1年生「非常事態発生！そのときどうする！」

キッチンで調理中、ブロック屏に囲まれた路地、大型ショッピングセンターで買い物中 等、地震発生時にどのような行動をとればよいか、7つのケースについてシュミレーションする授業。



2年生「クロスロード・どちらを選ぶ！」

問題です。「未曾有の大地震により、町のあちこちで火災発生。気がつくと隣の家でも火災発生、我が家にも燃え移りつつある。そこに消防車のサイレンの音が近づいている。あなたは、消火のために消防車を止めますか。」二者択一の問題にYes/Noで判断しながら、防災を他人事ではなく、我が事として考える授業。



3年生「防災マップを作ろう」

地図上で自分の家に赤シールをはり、津波予想の線を青ペン、避難場所に緑シール、幹線道路・鉄道に茶色ペン、河川を黄色ペン、危険個所に赤ペンと、防災マップを完成させていく。そして、作業を通して、地域の防災のウィークポイントを知り、被災状況をイメージし、災害を身近に考える授業。

② 救命救急学習 (AED講習) 7月9日(水) 2年生93名 2時間



③ 着衣水泳 7月11日(金) 3年生109名



(自由記述: 2/3)

④ 11月5日「生徒・地区住民避難訓練」

11月5日「津波防災の日」、中津市の大津波警報放送に併せて、小祝地区の皆さん・保護者の皆さんに参加して頂き、「生徒・地区住民避難訓練」を実施しました。大災害で小祝地区が孤立した場合を想定し、北校舎3階マルチルーム・4階屋上に城北中全校生徒・職員300人と参加した地区住民・保護者80人で避難しました。



その後、1・2年生と地区住民の方は高倉清さんの「郷土における災害の歴史」の講話、3年生は小祝「リーフ」防災担当の方より「要援護者の防災支援」の講話・実技指導を受けました。当日、OABの夕方ニュースでも訓練の様子が紹介されました。



⑤ 12月13日(土)「総合防災学習」

1年生 「自助」 「災害時に自分の命を守る方法を知る」



ハザードマップ



消防署より
スモーク体験



水消火器



毛布や上着を使い
被災者の運搬練習

2年生：公助 「災害時に自分でできることを知る」



社協の吉田氏の講話
「自助と公助」



サザエさんのお家で
安全性を検証する



各クラスで防災宣言

3 年生：共助 「災害ボランティア活動について考える」



社協の吉田氏の講話
「避難所運営」



被災地でできる
活動を考える



ボランティアおにぎりづくり



⑥ 総合的な学習の時間（防災教育：年間 20 時間）

1. 総合的な学習における防災教育に関わるねらい

- (1) 災害についての正しい知識と、防災のあり方について理解を深める。
- (2) 災害発生時、発生後に必要とする知識・技能を身につける。
- (3) 災害発生時、発生後に大切な社会性や公德心などを養い、地域の一員としての責任を自覚する。

2. 学習テーマ

大規模災害に備え、「自助」「公助」「共助」を各学年のテーマとし、系統立てて実施する。

(3 年間で 1 サイクル)

- 自助：自分自身の身を守り、被害を最小限にするためにできることを考え、実践する。
- 公助：災害時に対応する公的機関の働きや役割、情報通信網などについて理解を深めるとともに、災害発生時に自分ができることについて考え、実践する。
- 共助：地域の防災について、その役割を知り、中学生としてできることを考え、地域の一員としての責任を自覚し、実践する。

3. 学習対象・学習項目

第 1 学年（自助）

「災害の種類」「災害のメカニズム」「救助器具の使い方と初期消火」「簡易耐震診断」「緊急地震速報」「ハザードマップ」「防災かるた」「クロスロード」「防災宣言」等

第 2 学年（公助）

「防災施設見学」「災害時伝言ダイヤル」「応急手当」「心肺蘇生法」「AED」
「家庭での防災」「防災宣言」

第 3 学年（共助）

「地域防災マップ」「避難所での生活」「ボランティア活動への参加」「地域防災訓練への参加」「DIG」「防災宣言」「HUG」等

※各学年の内容を学ぶにあたっては、関係機関との連携や外部講師の活用、各教科の学習内容との関連を図る。

(自由記述： 3/3)